

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制(農薬使用基準等)等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第3号 畑作物

発行日 平成23年 5月25日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4435)

携帯電話用 QRコード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

小麦： 小麦の生育は全般的に平年よりも5日前後遅れています。まもなく開花期を迎え、赤かび病の防除適期になります。低温が続いた場合、開花が遅れることが予想されますので、防除適期を逃さないよう注意しましょう。

収穫作業に備え、乾燥施設との連携や収穫機械の整備などを行い、万全の体制で望みましょう。

大豆： 排水対策・耕起・砕土などを丁寧に行い、土壌条件を整えましょう。種子消毒・播種・除草剤の散布などは計画的に実施し、初期生育を確保しましょう。

1 小麦

(1) 赤かび病の防除

赤かび病の薬剤防除は、品種や天候によって2回目、3回目の散布が必要になります。下表を参考に防除を行いましょ。

ア 赤かび病防除の考え方

品種	開花期 (1回目散布)	1回目散布の 7～10日後	2回目散布の 7～10日後
ナンブコムギ	◎ (必須)	○ (曇雨天続く時)	—
ゆきちから ネバリゴシ コユキコムギ	◎ (必須)	◎ (必須)	○ (曇雨天続く時)

イ 穂が緑色のうちには場を見回り、赤かび病にかかっているものを抜き取りましょ。

ウ 多発した場合は、刈り取りを別とし、健全粒に赤かび粒が混入しないようにましょ。

(2) 乾燥・調製施設との連携

ア 小麦の収穫時期は梅雨と重なるため、実際の刈取り期間はかなり短くなります。また、刈取時に雨の日が続き、刈取りが遅れると穂発芽や赤かび粒も発生しやすくなります。適期内に収穫できるよう機械等の点検整備をあらかじめ行いましょ。

イ 施設を利用して乾燥・調製を行う場合は、施設側との連携を深め、計画的に収穫作業ができるよう、収穫・受け入れ体制を今から十分に整えておきましょ。

2 大豆

(1) 排水対策の実施

ア 排水不良は発芽不良を誘発するだけでなく、根粒の着生を抑制します。

イ 播種前に弾丸暗きょやサブソイラ等を用いて排水対策を講じましょ。特に転作田では必ず畦

畔の内側に 40～50cm の溝（額縁明きよ）を作り、ほ場水尻の排水口につなぎましょう。

（２）耕起・砕土・整地

ア 砕土をできるだけ丁寧に行いましょう。仕上がりが不均一だと、除草剤の効果が低下したり、薬害の誘発、播種精度の低下に伴う発芽不良などの原因となります。

イ 砕土はよく乾いたほ場から行いましょう。

ウ 耕うん・砕土後（特にロータリ耕後）は、土壌が水分を含みやすく、乾きにくくなります。播種スケジュールと天候の動きをみながら、柔軟に作業日程を立てましょう。

エ 耕うん後に降雨があると、土壌条件が整わず播種が遅れることがあります。オペレータが確保できれば、砕土作業を追いかけるように、播種、除草剤散布を同日に行うのが理想的です。

（３）播種作業・・・栽植密度を確保するため次の点に留意を

ア 播種適期

概ね表 1 のとおりです。

表 1 大豆の品種別地帯別播種適期

早晚生	品 種 名	県北部	県中部	県南部
極早生	ユキホマレ	6/ 5～6/25	6/20～7/10	7/ 1～7/20
晩生	ナンブシロメ・スズカリ	5/20～5/31	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
晩生	リュウホウ	—	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
中生	すずほのか（標播） （晩播）	5/20～5/25	5/15～5/31	6/ 1～6/15
		—	6/ 1～6/5	6/16～6/20
晩生	コスズ	5/20～5/25	5/15～5/31	6/ 1～6/15
中生	南部黒平	5/20～5/31	5/15～5/31	6/ 1～6/20
晩生	青丸くん	5/20～5/31	5/15～6/ 5	6/ 1～6/20
極晩生	岩手みどり、ミヤギシロメ	—	—	5/20～6/ 5

播種作業は適期内に行いましょう。ただし、圃場が滞水するような条件や播種前後に大雨が予想されるときは作業を控えましょう。

逆に乾燥しすぎた土壌でも発芽障害となるので、しばらく降雨が見込めない場合には播種深をやや深くしましょう。

イ 播種様式

畦幅（条間）は、その後管理する機械に合わせて設定してください。品種別の栽植密度は表 2 のとおりです。

表 2 普通大豆の品種別栽植密度と播種量

項目	ユキホマレ	ナンブシロメ	リュウホウ	スズカリ	青丸くん
栽植密度(本/10a)	2万～3万	1万～1万2千	7千～1万5千	1万～1万2千	1万～1万2千
畦間×株間(cm) *	70×14～9 30×30～22	70×30～24	70×40～20	70×30～24	70×30～24
播種量(kg/10a)	6～9	2.5～3	2.5～5	3～3.5	2.5～3

*) 畦間を 70 cm、1 株 2 本立てとした場合を示した。

「ユキホマレ」の麦後栽培では、畦間 30 cm 前後の狭畦密植とする。

「リュウホウ」は、播種期により栽植密度を調整する（晩播ほど密植とする）。

ウ 播種量

同じ栽植密度でも種子の大きさにより播種量が変わりますので、適正な栽植密度となるよう、種子の大きさに応じて播種量を決めましょう。主な品種の種子の大きさは次の通りです。

＜参考＞ 23年度播種用種子

品種	区分	百粒重 (g/100粒)	必要種子量 (kg/10a)
ナンブシロメ	中粒	26.0	3.1kg 程度
ナンブシロメ	小粒	20.3	2.4kg 程度
リュウホウ	大粒	33.2	4.0kg 程度
リュウホウ	小粒	27.6	3.3kg 程度
スズカリ	大粒	31.9	3.8kg 程度
コスズ すずほのか	小粒	10.2	1.2kg 程度
	極小粒	8.2	1.0kg 程度

※ ナンブシロメ・スズカリの適正な栽植密度は、10aあたり10,000～12,000本、リュウホウの適正な栽植密度は10aあたり7,000～15,000本です。

※ 必要種子量は、10aあたり12,000本、出芽率100%の場合で計算していますので、出芽率が80%程度となっても、本数は10,000本近く確保できる種子量です。

エ 病害虫防除・・・種子消毒を徹底

紫斑病やタネバエ防除のため、ECP・チウラム粉剤（対象：タネバエ）やチウラム水和剤（対象：紫斑病・タネバエ）等で種子消毒をします。

「青丸くん」については褐斑粒発生防止のため、ウィルスを媒介するアブラムシを防除してください。アブラムシ類の防除は、土壌施用殺虫剤および本葉第1葉～2葉展開期頃の茎葉散布を行いますが、種子にチアメトキサム水和剤を塗抹処理した場合は、エチルチオメトン粒剤やジメトエート粒剤などの播種時の土壌施用を省略できます。

(4) 雑草防除・・・丁寧な砕土で除草剤の効果安定化を

ア 土壌処理剤は播種後すぐに散布できるよう作業を組みましょう。

また、土壌が乾いている時は、希釈水量も上限量で均一に散布し、処理層の形成に努めましょう。

イ 砕土が不十分な状態で土壌処理剤を使用すると効果が低下したり、薬害の発生するおそれがあります。砕土を丁寧に行い、土壌処理剤と中耕を適切に組み合わせることが大切です。

ウ 覆土が浅すぎる場合も薬害の生じる場合があります。覆土は2～3cm確保しましょう。

(5) 中耕培土・・・中耕培土で生育の安定化を

中耕培土には次の効果があり、生育を安定化するのに役立ちます。

ア 雑草防除

イ 倒伏防止

ウ 土壌の通気性を良好にし地温を上昇させ根の機能を向上させる

エ 発根を促進し、根群を発達させる

オ 土壌の排水を良好にする

中耕培土の時期は大豆3葉期が一般的ですが、雑草の発生時期に応じて（除草剤の効果がなくなってきたら）、雑草が小さいうちに行うことが重要です。培土の高さは、コンバイン収穫の場合はあまり高くしないこと（おおむね1葉節以下）に留意します。また、汚損粒の発生を防ぐため、培土の高さは一定となるようにします。

春の農作業安全月間実施中！

[4月15日]
[~6月15日]

農作業 無事故でつなぐ 明るい未来

次号は6月30日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づき作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。